



両国の参加者が揃って記念撮影

した。町の入口には歓迎の横断幕が掲げられ、役場前ではたくさんの住民たちが迎えてくれました。

講堂での歓迎式典は、民族芸能の太鼓演奏とヨーデル合唱で幕開け。金洪中交流協会長から「再びお会いできて、うれしいです。あつい友情の中で、多方面の交流ができるよう願います」と歓迎を受け、川添町長は「長島町は2町が合併し、新『長島町』となりました。今回の訪問で、新たな友好の絆を結びましょう」とあいさつしました。

その後、吉祥面の農協や小・中・高校を視察し、子どもたちは1〜2人ずつに分かれてホームステイ先へ向いました。

交流（3日目）

子どもたちはホームステイ先の家庭で過ごしました。サッカーでスポーツ交流をしたり、買物に出かけたり、観光地を巡ったりとそれぞれの韓国体験をしました。

一般の団員は交流協議会員に、高麗人参畑や伝統ある伝

灯寺など吉祥面や江華島の名所を案内してもらいました。

別れ（4日目）

吉祥面で過ごす最後の日です。役場の講堂で歡送式が行われ、川添町長は「子どもたちは、これまでに経験したことのない韓国の文化に触れることができ、宝になったと思います。今度は皆さんが長島町へお越しください」とお礼のことばを述べました。続いて、深川真子さん（長島中3年）が「ホームステイ先では親切にしてください、不安も消えて楽しく過ごすことができました。この経験は生涯忘れません」と韓国語でお別れのあいさつして、大きな拍手を受けました。

出発までの間、記念撮影をしたり、ネーム交換をしたり、握手をしたりと、ホームステイ先の家族と子どもたちは、別れを惜み、再開を誓い合っていました。

大勢の見送りを受けて、訪問団はソウル市内へ出発。ソウル市内では韓国民族村などを見学しました。



別れを惜しんで抱き合う両国の子どもたち

帰国（5日目）

早朝、仁川空港へ向けて出発。韓国を出国して正午ごろ鹿児島空港に団員全員が無事帰国しました。

黒之瀬戸大橋の駐車場で解団式を行い、水口敬介（鷹巣中3年）が「この経験を糧に、将来頑張っていきます」と感謝のことばを述べ、訪問団一行はそれぞれの家庭へと帰っていきました。

国と国が理解しあうためには、地域同士がこのような交流を図り、人と人が友好を深めることが大切です。今回、訪問団に参加した子どもたちが大人になったとき、日韓両国の関係はもっと深くなっていることでしょう。